

新年のご挨拶

令和8年1月

公益社団法人 日本測量協会

九州支部長 横山 巍



新年のお慶びを申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は「丙午」。字義によれば「新たな発想と勢いで変革に踏み出す年」となります。

防災・減災対策、インフラ老朽化対策、そしてスマートシティ構想など、社会のあらゆる課題解決において、測量データが不可欠な基盤情報となっています。特に本年は、準天頂衛星システム（QZSS）「みちびき」が、いよいよ7機体制となる予定です。みちびき7機体制が確立されると、日本上空に常に4機以上のみちびきの衛星が滞空し、みちびき単独での持続測位が可能となります。これにより、高精度測位と測量データの更なる高度利用が可能となり、測量業界のみならず社会の幅広い分野での活用が期待されています。

このように、技術革新が加速する一方で、深刻化する担い手不足と高齢化は業界における喫緊の課題です。若手技術者の確保と育成、そして熟練技術者の持つ知見を継承し、新たな技術に対応するための取り組みを、業界全体で強化していく必要があると思われます。

当支部の主要事業である、測量技術者の方々への継続教育につきましては、新年度（令和8年度）は、本部主催の講習会11回に加え、支部主催の講習会23回を計画しております。講習会の開催方法としては、従来の集合対面方式に加え、オンライン方式（リアルタイム配信）、オンデマンド方式、ハイブリッド方式（集合対面とリアルタイム配信の併用）など、多彩な開催方法を取り入れ、多くの方が受講できる受講環境の充実を図ります。

なお、集合対面方式のご要望も強いため、九州各県の測量設計業協会様のご協力を得て「測量・地理空間情報技術者のためのアドバンスセミナー」を毎年2県で開催しており、新年度は大分県・佐賀県で開催する予定です。多くの方のご参加を願っております。

さて、当支部の会員数は昨年11月末時点で、正会員（個人）1,002名、準会員（学生）123名、特別会員（法人）279社で、一昨年からの会員数を概ね維持しております。

今後とも、受講環境の充実による新規入会者の増加を促し、支部技術センターが実施する測量機器検定・測量成果検定も含め、支部事業全体において、「会員サービスの向上」「測量業界の発展」「働き方改革」の観点をもって、より効率的な事業活動を実施してまいります。

本年も、国土地理院九州地方測量部の技術指導のもと、支部役員ならびに支部事務局員との緊密な連携を図りつつ、皆様のご期待に応えるべく、支部活動の充実と活性化に努める所存です。改めて皆様のご理解・ご協力を願い申し上げます。

会員の皆様のますますのご発展とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。